

令和8(2026)年度 一般選抜前期②(令和8年2月2日実施分)「国語」出題意図

大問□ \* 評論・論説文の読解能力を問う。(山口裕之『「みんな違ってみんないい」のか?』)

問一 漢字力を試すため、二字熟語の「上の漢字」と「下の漢字」それぞれと同じ漢字が使用されている別の熟語を選択する問題であり、熟語全体としての意味を大まかに暗記しているだけでは対応が困難である。

問二・問四 出題文は「評論・論説」分野の文章としては珍しく「物事の時間順」が直線的ではない。問二の傍線部には「驚いたことに」と「当たり前というべき」という相反する内容の修飾句が存在するが、前者は研究に着手する段階の視点に基づき、後者は研究成果が出そろった後の視座に拠っている。また、問四の傍線部は、「当たり前」という視座についてのみ言及しているように見えるが、「驚いたことに」という視点が二項対立の相手方として意識されていることを読み取る必要がある。

問三 記述問題ではあるが、設問に示された条件に的確かつ適切に対応すれば解答はそれほど困難ではない。

問五 出題文全体の趣旨を理解したうえで解答する必要がある、選択問題としては難易度は高い。評論文によく用いられる漢語に関わる日常的な学習成果が問われている。

大問□ \* 小説・随想文の読解能力を問う。(筒井康隆『講演』)

問一・問四 傍線部分の趣旨を説明する記述問題。問一は直前の一文の内容をまとめればよいが、字数制限が厳しいことから語彙力の差が出やすい問題となっている。一方、問四は、小説の問題ならではの出題であり、書いてあることがらの表面だけを読み取るのでは不十分であり、(注2)なども参考にしながら、主人公の自負心についても言及する必要がある。

問二 大問□の問一に同じ。

問三 選択問題だが難易度は高い。傍線部の周辺をさっと眺め回して読解のきっかけをつかもうとしても、文章中に書かれていない「上機嫌のふりをする理由」には接近できない。主人公の心理を時間順に丁寧に整理する読解姿勢を日頃から養っておく必要がある。

大問□ \* 慣用句・諺・四字熟語等の意味・用法を問う。

問一 当該の意味を持つ語句または慣用句を選択する問題。(1)は「口を糊する」という、高校生にはあまり馴染みのない慣用句を出題した。受験を機に故事成語の知識も十分に整備しておきたい。

問二 諺の一部の漢字表記を問う。諺は、人間の経験則と価値観が法則化されたものであり、文章読解の基盤となる重要な言語能力の一つであることを再確認したい。

問三 指定された意味に相当する四字熟語を選択する問題。(2)の「青天白日」の「青天」は「晴天」でなく、「白日」の「日」は太陽のことである。漢字の訓と意味を常に意識した学習姿勢の確立を促したい。